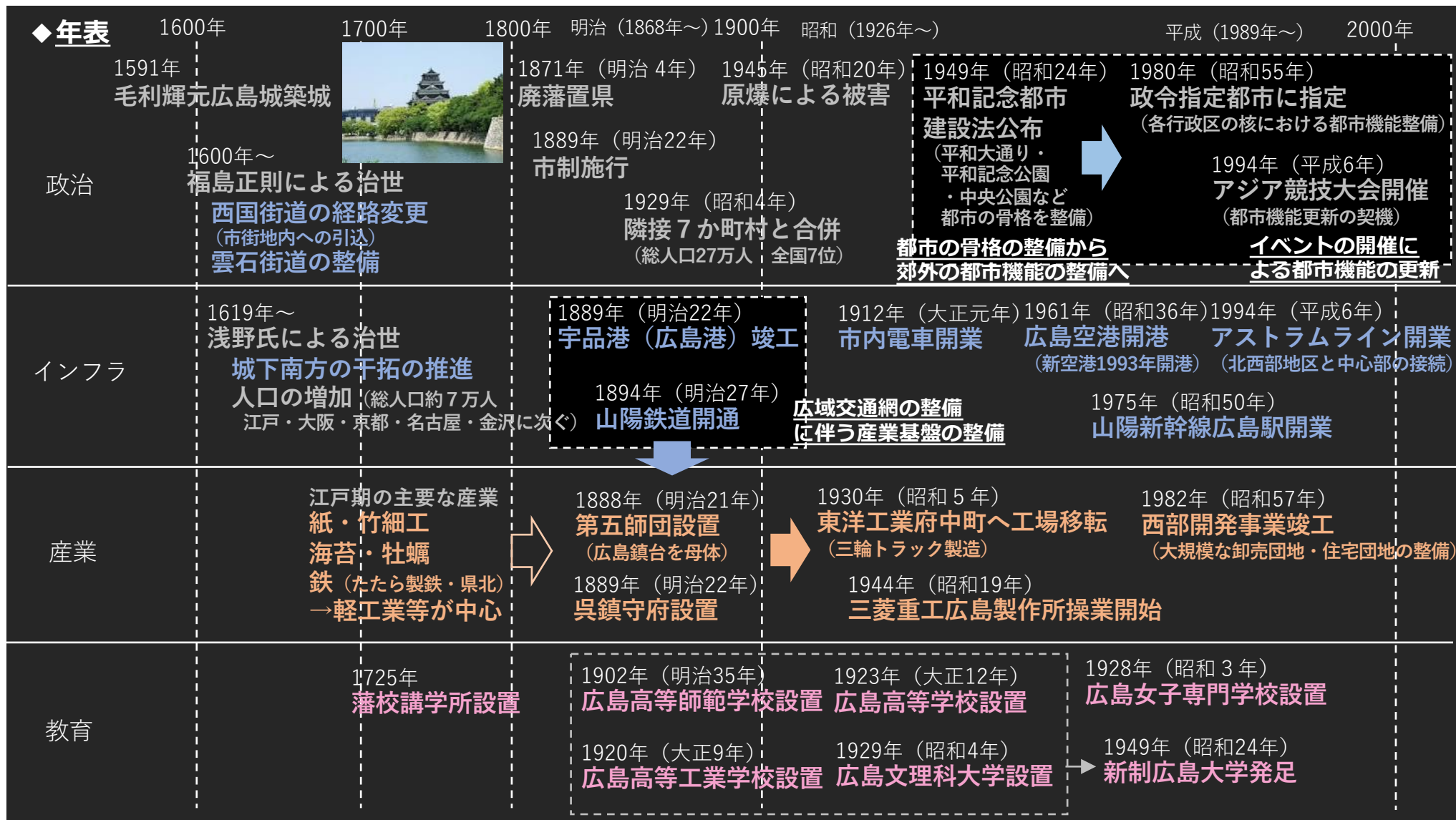


広島における地域形成と産業構造の関係性について

江口 範晃

広島市の歴史および現況について



広島市中心市街地の都市構造

郊外から中心市街地への人口移動

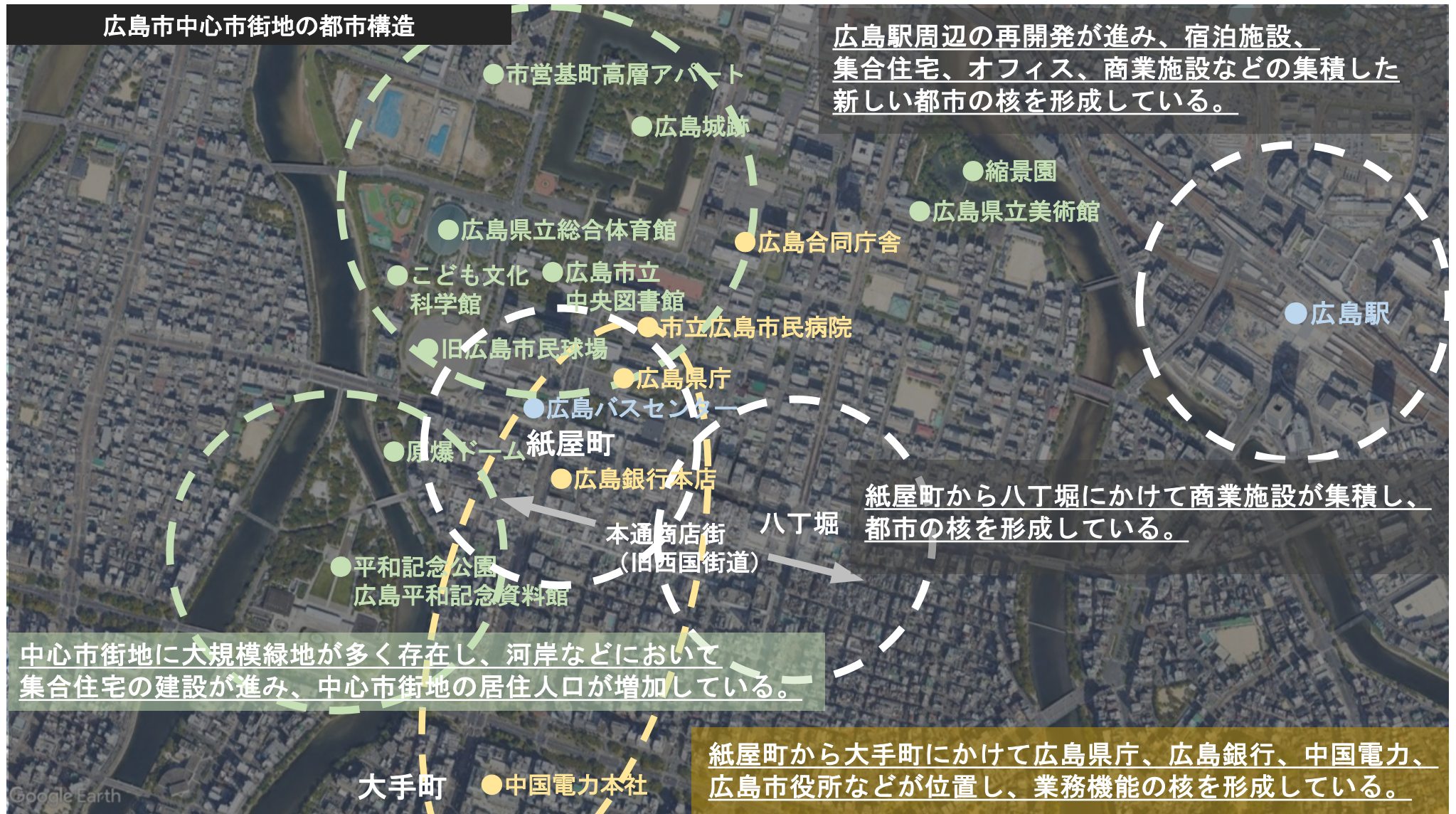
1970年代から80年台に郊外の丘陵地において大規模な団地の開発が進められた。



Google Earth

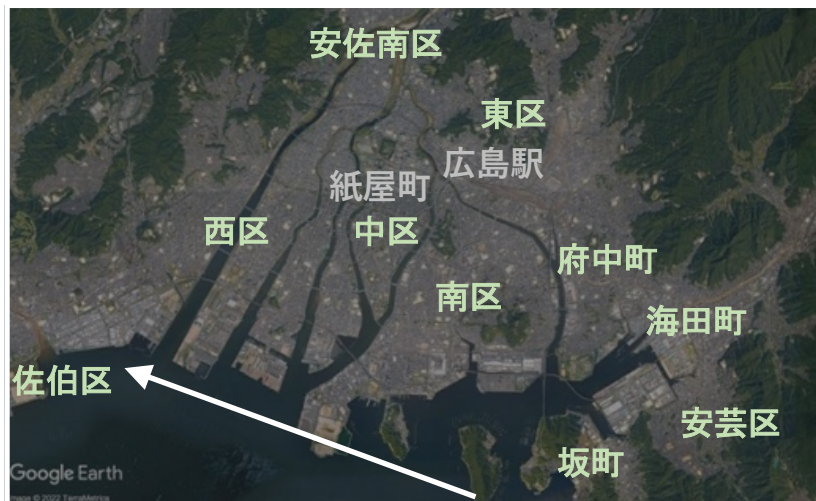
Image © 2022 TerraMetrics

広島市中心市街地の都市構造



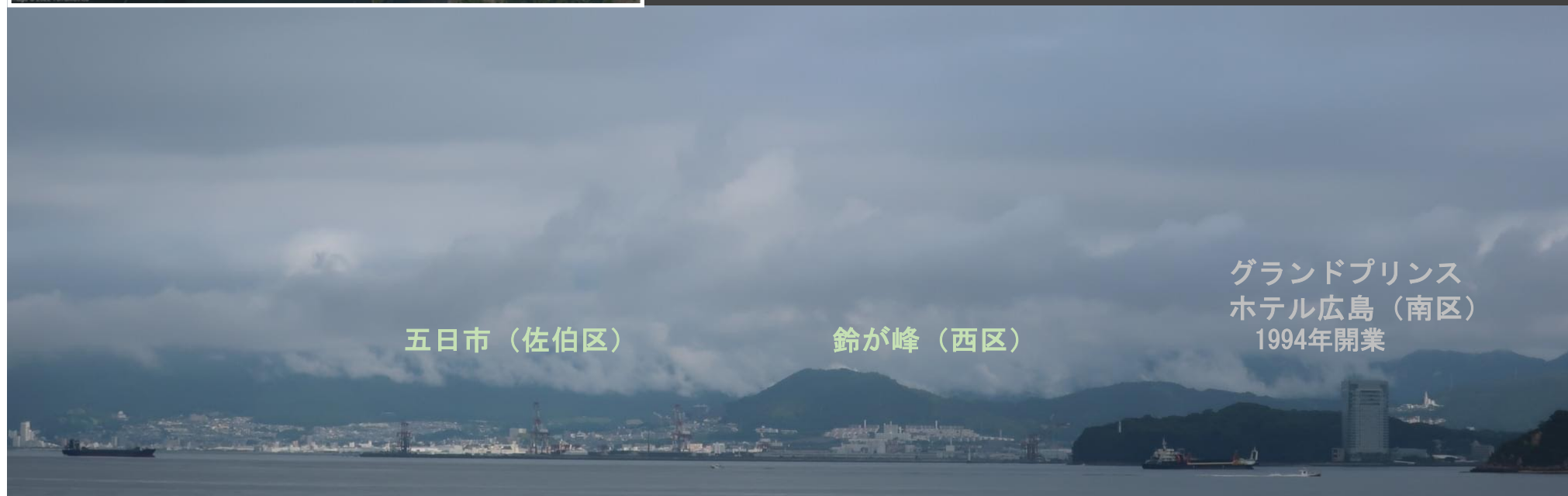
(参考) 岡山市中心市街地の都市構造

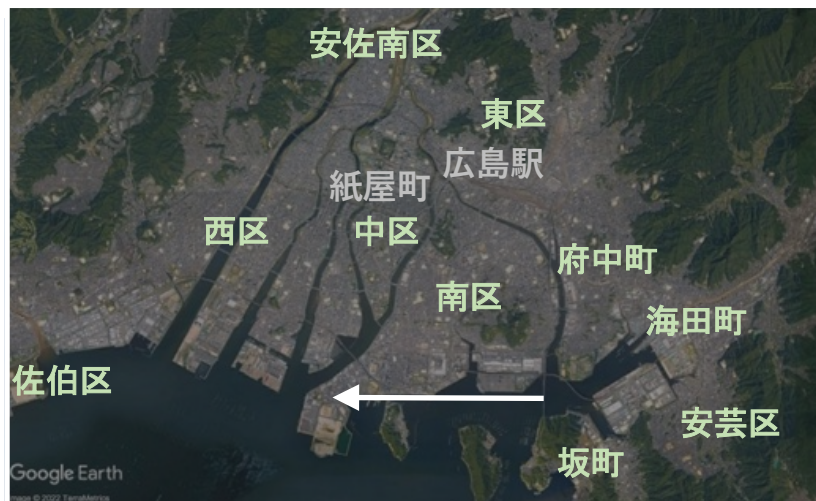




【広島湾対岸より宇品・江波・観音・鈴が峰・五日市地区を望む】

- ・郊外の丘陵地において1970年代から80年代に大規模な団地の開発が進められた。





【広島大橋よりマツダ宇品工場方面を望む】

- ・ 臨海地区にはマツダや三菱重工などの生産施設が位置している。



【おりづるタワーより平和記念公園方面を望む】

- ・ 中心市街地に大規模緑地が多く存在し、河岸などにおいて集合住宅の建設が進み、中心市街地の居住人口が増加している。





【おりづるタワーより広島城・新サッカースタジアム方面を望む】

- ・軍用地であった広島城跡周辺には、戦後被災者のための木造の公営住宅が建設された。
- ・住宅地区改良事業により高層住宅を建設し、公園および河岸緑地空間の確保が行われた。





【本通駅より紙屋町交差点・広島城方面を望む】

- ・紙屋町から大手町にかけて広島県庁、広島銀行、中国電力、広島市役所などが位置し、業務機能の核を形成している。
- ・紙屋町から八丁堀にかけて、商業施設などが集積し、都市の核を形成している。





【広島駅新幹線口より南方向を望む】

- ・広島駅周辺の再開発が進み、宿泊施設、集合住宅、オフィス、商業施設などの集積した新しい都市の核を形成している。





【広島駅新幹線口北西側より南東方向を望む】

- ・ 広島駅周辺の再開発が進み、宿泊施設、集合住宅、オフィス、商業施設などの集積した新しい都市の核を形成している。



シェラトン
グランドホテル広島
2011年開業

ホテルグランヴィア広島
1987年開業

広島市の歴史および現況について

広島市は1590年代の広島城築城とともに中国地方における政治の拠点として、市街地形成が始まった。

江戸期には、干拓により市街地を南部に拡張するとともに、西国街道（山陽道）を市街地へ引き込むことや山陰への街道整備により、中国地方における交通拠点となった。

明治期には、宇品港の竣工および山陽鉄道の開通など広域交通拠点の整備により、海外への中継地とともに第五師団および呉鎮守府の設置により軍事拠点となった。

大正期から昭和期初期にかけて、広島市および呉市の軍事拠点化に伴い、軍需工場が多く位置することとなり、戦後における産業転換により工業の礎となった。

昭和期には、戦後に制定された平和都市建設法により、平和大通りが整備されるとともに、中心市街地の軍用地や河川に沿った地域などが緑地となり新しい都市の核が形成された。また、政令指定都市制定により各行政区ごとの拠点整備が進むとともに市街地が拡大した。

平成期には、アジア大会の開催を機に、新交通システム（アストラムライン）や宿泊施設などの都市機能の更新が進むこととなった。



都市は地域特性と連携し歴史の蓄積により形成されている。

広島市および各行政区の特徴および課題について

日本における国土整備の過程

① マーケット1.0 工業化社会への転換以前 都市の生産拠点化

農業や水産業や鉱業などの各地域の有する自然的特性を生かし、国土全体における産業の分散が進むこととなった

② マーケット2.0 工業化社会 都市の流通拠点化

経済規模の拡大により、分業システムおよび資本の集中、規模の経済が進み、首都圏への一局集中が進むこととなった

③ マーケット3.0 地域の価値をつなぐブランド力

④ マーケット4.0 個々のニーズに対する多様性

一局集中による単一的な価値観からの脱却が必要であるため多様な価値を有する地方の活用が有効
地方の中核都市がそれらの近隣地域の多様な価値を引き出すしくみづくりについて国土全体において必要

地方の中核都市の役割

単一の目的により存在するのではなく

① 地域の有する多様な価値を引き出す（近隣地域における経済循環）

② 他の地域との融合を生み出す（首都圏や海外を含めた他の地域との連携ネットワーク）

広島市の人口動向

(地域経済総覧2020東洋経済)

	面積 (2018年)	人口 (2019年)	人口密度 (2019年)	人口 (2014年)	人口増減率 (19年-14年)
広島市	906.68	1,196,138	1319.25	1,186,928	0.8%
札幌市	1,121.17	1,955,457	1744.12	1,930,496	1.3%
福岡市	343.45	1,540,923	4486.60	1,474,336	4.5%
仙台市	786.29	1,062,585	1351.39	1,049,578	1.2%
北九州市	491.95	955,935	1943.15	971,891	-1.6%
新潟市	726.44	792,868	1091.44	806,525	-1.7%
浜松市	1,558.06	804,780	516.53	812,286	-0.9%
熊本市	390.32	734,105	1880.78	734,287	0.0%
岡山市	789.95	709,241	897.83	704,572	0.7%
静岡市	1,411.83	702,395	497.51	718,774	-2.3%

◆広島市の人口動向

三角州により形成される平地は
他の都市に比べ面積が狭いことが
人口集積度が特に高い原因と考えられる。



1970年代から80年台に郊外の丘陵地に
大規模な団地の開発が進められたが
現在は中心市街地および郊外の平地における
集合住宅の建設が進められている。

中心市街地（中区）の人口密度が高く人口増加率も高い

広島市					
中区	15.32	134,039	8749.28	128,214	4.5%
東区	39.42	120,840	3065.45	122,073	-1.0%
南区	26.46	142,479	5384.69	139,993	1.8%
西区	35.61	189,823	5330.61	188,418	0.7%
安佐南区	117.03	244,241	2086.99	238,544	2.4%
安佐北区	353.33	145,463	411.69	151,396	-3.9%
安芸区	94.08	80,113	851.54	81,068	-1.2%
佐伯区	225.43	139,140	617.22	137,222	1.4%

北部の郊外の地域のうち
安佐南区で人口増加率は比較的高く
安佐北区で人口減少率が高い

(地域経済総覧2020東洋経済)

	出生者数 (2018年)	出生者数/人口 (2018年)	死亡者数 (2018年)	死亡者数/人口 (2018年)	転入者数 (2018年)	転入者数/人口 (2018年)	転出者数 (2018年)	転出者数/人口 (2018年)	転入者数 /転出者数 (2018年)
広島市	10,276	0.9%	10,593	0.9%	66,645	5.6%	64,534	5.4%	103%
札幌市	13,971	0.7%	17,863	0.9%	125,994	6.5%	116,355	6.0%	108%
福岡市	14,687	1.0%	12,180	0.8%	123,211	8.1%	110,218	7.2%	112%
仙台市	8,729	0.8%	8,825	0.8%	68,560	6.5%	66,070	6.2%	104%
北九州市	7,427	0.8%	11,289	1.2%	44,114	4.6%	45,430	4.7%	97%
新潟市	5,752	0.7%	8,616	1.1%	30,165	3.8%	30,539	3.8%	99%
浜松市	6,433	0.8%	8,150	1.0%	37,307	4.6%	35,851	4.4%	104%
熊本市	6,805	0.9%	6,936	0.9%	42,323	5.8%	42,159	5.7%	100%
岡山市	6,139	0.9%	6,915	1.0%	37,494	5.3%	35,692	5.0%	105%
静岡市	4,658	0.7%	8,153	1.2%	26,284	3.7%	26,470	3.7%	99%
郊外（安佐北区）の出生者比率が低く死亡者比率が高い									
広島市									
中区	1,099	0.8%	1,275	1.0%	11,593	8.7%	10,366	7.8%	112%
東区	963	0.8%	1,153	1.0%	6,408	5.3%	6,462	5.3%	99%
南区	1,222	0.9%	1,305	0.9%	9,256	6.5%	8,445	5.9%	110%
西区	1,784	0.9%	1,620	0.9%	11,721	6.2%	11,823	6.2%	99%
安佐南区	2,546	1.0%	1,702	0.7%	12,772	5.2%	12,402	5.1%	103%
安佐北区	856	0.6%	1,667	1.1%	4,761	3.3%	5,040	3.4%	94%
安芸区	683	0.8%	712	0.9%	3,909	4.9%	4,071	5.1%	96%
佐伯区	1,123	0.8%	1,159	0.8%	6,225	4.5%	5,925	4.3%	105%
中心市街地（中区）の転入者率が高い									

広島市の人口動向 (地域経済総覧2020東洋経済)

	年少 人口比率 (2015年)	生産年齢 人口比率 (2015年)	老年 人口比率 (2015年)	後期高齢者 人口比率 (2015年)	外国人人口 (2019年)	外国人 人口比率 (2019年)
広島市	13.9%	61.2%	23.4%	10.5%	19,166	1.6%
札幌市	11.3%	63.3%	24.8%	11.5%	13,488	0.7%
福岡市	13.0%	64.8%	20.3%	9.3%	37,130	2.4%
仙台市	11.9%	62.4%	21.7%	10.2%	12,883	1.2%
北九州市	12.4%	57.2%	28.8%	14.2%	13,315	1.4%
新潟市	12.1%	60.3%	26.8%	13.3%	5,607	0.7%
浜松市	13.5%	59.3%	26.1%	12.9%	24,336	3.0%
熊本市	14.0%	61.1%	23.9%	12.0%	5,927	0.8%
岡山市	13.5%	60.5%	24.3%	11.6%	13,026	1.8%
静岡市	12.1%	58.9%	28.4%	13.8%	9,838	1.4%
広島市 中区 東区 南区 西区 安佐南区 安佐北区 安芸区 佐伯区 11.2% 13.7% 13.5% 13.5% 17.0% 11.9% 14.2% 14.3% 64.3% 61.0% 62.7% 64.1% 62.5% 56.4% 60.5% 60.0% 24.5% 25.3% 23.9% 22.4% 20.6% 31.8% 25.3% 25.7% 11.9% 12.1% 11.5% 10.6% 9.5% 14.6% 12.0% 11.4% 4,150 1,897 2,231 4,267 2,150 1,932 1,483 1,056 3.1% 1.6% 1.6% 2.2% 0.9% 1.3% 1.9% 0.8%						

郊外（安佐南区・安芸区・佐伯区）の年少人口比率が高い

中心市街地（中区）の外国人人口比率が高い

広島市の産業動向
(地域経済総覧2020東洋経済)

◆広島市の産業動向

中区の中心市街地から南区の広島駅にかけて
業務機能および大規模商業施設が集積している
南区・安芸区・西区・佐伯区の臨海地区に
重工業の生産施設および港湾施設が集積している

広島市	製造品出荷額 (万円) (2016年)	卸売年間販売額 (万円) (2016年)	小売年間販売額 (万円) (2016年)	製造品 + 卸売 + 小売 (万円) (2016年)	製造品 + 卸売 + 小売/人口 (2016年)	製造品/製造品 + 卸 売 + 小売 (2016年)	卸売/製造品 + 卸売 + 小売 (2016年)	小売/製造品 + 卸売 + 小売 (2016年)	製造品出荷額 /人口 (万円) (2016年)	卸売年間販売額 /人口 (万円) (2016年)	小売年間販売額 /人口 (万円) (2016年)
広島市	3,018,020	6,380,850	1,463,310	10,862,180	9.12	27.8%	58.7%	13.5%	2.53	5.36	1.23
札幌市	534,590	7,666,170	2,289,860	10,490,620	5.40	5.1%	73.1%	21.8%	0.28	3.95	1.18
福岡市	576,210	11,603,300	2,139,940	14,319,450	9.54	4.0%	81.0%	14.9%	0.38	7.73	1.43
仙台市	875,060	7,632,700	1,491,350	9,999,110	9.46	8.8%	76.3%	14.9%	0.83	7.22	1.41
北九州市	2,058,320	1,647,250	1,049,460	4,755,030	4.89	43.3%	34.6%	22.1%	2.12	1.70	1.08
新潟市	1,066,560	2,270,770	961,100	4,298,430	5.35	24.8%	52.8%	22.4%	1.33	2.83	1.20
浜松市	1,803,610	1,923,400	933,380	4,660,390	5.76	38.7%	41.3%	20.0%	2.23	2.38	1.15
熊本市	411,066	1,512,009	780,047	2,703,122	3.68	15.2%	55.9%	28.9%	0.56	2.06	1.06
岡山市	1,006,794	2,309,879	884,201	4,200,874	5.94	24.0%	55.0%	21.0%	1.42	3.26	1.25
静岡市	1,830,914	2,172,349	796,841	4,800,104	6.74	38.1%	45.3%	16.6%	2.57	3.05	1.12
卸売業年間商品販売額の人口比が中区で極めて高い											
製造品出荷額の人口比が南区で極めて高い											
広島市											
中区	99,490	2,419,000	413,450	2,931,940	22.46	3.4%	82.5%	14.1%	0.76	18.53	3.17
東区	17,570	606,050	64,560	688,180	5.69	2.6%	88.1%	9.4%	0.15	5.01	0.53
南区	1,918,770	1,181,540	194,500	3,294,810	23.32	58.2%	35.9%	5.9%	13.58	8.36	1.38
西区	200,640	1,486,190	241,930	1,928,760	10.17	10.4%	77.1%	12.5%	1.06	7.84	1.28
安佐南区	88,070	369,820	261,850	719,740	2.99	12.2%	51.4%	36.4%	0.37	1.54	1.09
安佐北区	253,250	69,800	118,350	441,400	2.96	57.4%	15.8%	26.8%	1.70	0.47	0.79
安芸区	285,140	141,250	46,980	473,370	5.86	60.2%	29.8%	9.9%	3.53	1.75	0.58
佐伯区	155,090	107,200	121,690	383,980	2.79	40.4%	27.9%	31.7%	1.12	0.78	0.88

広島市の地価・建設動向

(地域経済総覧2020東洋経済)

	住宅地平均地価 (2018年) (万円/㎡)	住宅地平均 地価増減率 (18年－17年)	商業地平均地価 (2018年) (万円/㎡)	商業地平均 地価増減率 (18年－17年)	商業地地価 /住宅地地価 (2018年)	新設住宅着工 床面積 (2017年)	新設住宅着工 床面積/人口 (2017年)	建築物着工 床面積 (2017年)	建築物着工 床面積/人口 (2017年)
広島市	9.95	2.0%	42.16	4.8%	4.2	819,995	68.7%	1,174,830	98.4%
札幌市	7.11	3.9%	32.75	10.0%	4.6	1,383,652	71.0%	2,023,404	103.9%
福岡市	12.81	4.4%	90.77	11.1%	7.1	1,100,637	72.7%	1,890,637	124.8%
仙台市	9.80	5.7%	42.78	9.9%	4.4	877,577	82.9%	1,434,155	135.5%
北九州市	5.53	0.1%	14.16	1.1%	2.6	547,861	31.3%	868,831	49.6%
新潟市	4.89	0.4%	14.07	0.8%	2.9	484,864	60.6%	762,954	95.4%
浜松市	6.12	-0.6%	13.60	0.9%	2.2	550,962	68.2%	877,976	108.7%
熊本市	6.24	1.2%	29.35	5.9%	4.7	799,071	108.9%	1,230,193	167.6%
岡山市	5.54	0.4%	18.14	1.9%	3.3	486,200	68.6%	796,576	112.4%
静岡市	11.45	0.8%	29.66	0.7%	2.6	430,885	60.8%	651,204	91.8%
新築住宅着工面積および建築物着工床面積の人口比率が中心市街地（中区）で高い									
広島市									
中区	23.00	4.9%	99.85	7.4%	4.3	172,178	130.8%	285,544	216.8%
東区	11.66	2.3%	46.45	5.6%	4.0	76,909	63.4%	87,864	72.5%
南区	19.05	4.7%	40.1	5.8%	2.1	106,212	75.0%	141,755	100.1%
西区	14.50	3.9%	26.28	4.4%	1.8	84,804	44.6%	140,733	74.0%
安佐南区	7.69	1.4%	16.7	5.7%	2.2	157,071	64.8%	209,841	86.6%
安佐北区	4.25	-0.6%	11.2	1.2%	2.6	59,229	40.1%	90,910	61.6%
安芸区	5.37	0.5%	5.19	-1.0%	1.0	29,414	36.4%	48,342	59.8%
佐伯区	7.51	2.1%	8.97	0.8%	1.2	134,178	97.0%	169,841	122.8%

広島市および各行政区の特徴および課題について

広島市は、県庁所在地らしい特徴を持ち、輸送機械を中心とした生産拠点が位置する、各行政区ごとに多様な特徴を有した複合体的な都市である。

中区	中心市街地として政治と商業の拠点が位置している。
東区	広島駅の北側に位置し今後新たな再開発が期待される。
南区	広島駅と広島港が位置し、南部にマツダの生産拠点が位置している。
西区	北部に郊外の住宅地、南部に三菱重工の生産拠点と中小企業の拠点が位置している。
安佐南区	郊外の住宅地により形成されており、今なお人口増加が進んでいる。
安佐北区	郊外の住宅地により形成されているが、今後人口減少が進むことが想定される。
安芸区	南区や西区とともに生産拠点が位置し、コンテナターミナルなど港の機能が位置している。
佐伯区	北部に郊外の住宅地、南部に大型フェリーターミナルなど港の機能が位置している。



**各行政区ごとに様々な特徴を有しており
それらを融合することにより持続的な発展へと結びつける。**

広島県における地域資源を活用した産業構造について

◆広島県内の産業構造

1950年代～

1980年代～

社会的背景

技術開発による産業構造の転換

臨海工業地帯の造成
広域交通網の整備

知識集約型産業の興隆
産業のプラットフォーム化

県内の産業
構造の変化

軍需産業から派生した
重工業を主軸

→軍需産業からの転換

産業構造の転換と高度化
地方銀行による支援

→DXの推進

既存の地場産業の進化
変革（トランスフォーメーション）と
統合（インテグレーション）の循環

地域特性を生かして
形成された産業基盤

×

広域流通網の整備
生産機能拠点の集積



軍需産業

呉海軍工廠
日本製鋼所広島
三菱電機福山
など

製造業を中心とした
企業城下町
地元発祥の製造業
×
中央企業の生産拠点

輸出型産業による
規模の経済

地域の
産業基盤としての
インフラ企業

広島県の上場企業（2019年1月）

製造業

マツダ リョービ ダイキョーニシカワ エフピコ 西川ゴム
中国塗料 マツオカコーポレーション ウッドワン 北川鉄工所

電気ガス水道業

中国電力 広島ガス

卸売・小売業

イズミ 青山商事 ポプラ

運輸業

福山通運

金融・保険業

広島銀行

建設業

中電工 ピーアールHD

◆岡山県内の産業構造（参考）

1950年代～

1980年代～

社会的背景

技術開発による産業構造の転換

臨海工業地帯の造成
広域交通網の整備

知識集約型産業の興隆
産業のプラットフォーム化

県内の産業
構造の変化

農業から派生した軽工業を主軸
（農業・繊維産業）

産業構造の転換と高度化
地方銀行による支援

基礎資源型→金属加工型→組立加工型→先端技術→GXへの布石

既存の地場産業の進化
変革（トランスフォーメーション）と
統合（インテグレーション）の循環

地域特性を生かして
形成された産業基盤

×

広域流通網の整備
生産機能拠点の集積



農業

畜産・酪農

綿花の栽培

林業

畳の生産

製塩業

地域特性を起源→

広域流通網

地域特性を起源→

繊維産業

地域特性を起源→

広域流通網

水島臨海
工業地帯

食品・医薬品原料（林原・オハヨー乳業・カバヤ・源吉兆庵）
飲料（麒麟ビール・アサヒ飲料・ヤクルト）
食品（日清製粉） 医薬品（大塚製薬・大鵬薬品）

農業機械（ヤンマーアグリ）船舶・医療機器（ナカシマプロペラ）
機械部品（NTN）

衣料（菅公学生服）
化学・繊維（クラレ・倉敷紡績）

資源・リサイクル（DOWA）

建材（大建工業・銘建工業・セキスイハイム）

教育（ベネッセ） 印刷（大日本印刷）

電機・電子部品（オムロン・パナソニック・ローム・村田製作所）

石油（ENEOS）
化学（三菱ケミカル・三菱ガス化学・旭化成）

鉄鋼（JFEスチール・東京製鐵）

輸送機械・重機（三菱自動車・住友重機械）

規模の経済から循環型の経済へ

地方の成長手法は

「地域の価値をつなぐブランド力」や「個々のニーズに対応する多様性」により
「マスマーケット型の規模の経済」から「地域資源を融合させた循環型の経済」へと変化している。

農業における新たな取り組み

レモン生産を軸にした様々な分野との融合
(観光農業・六次産業化・日本版DMO)

コミュニティづくりにおける新たな取り組み

エリアリノベーションによる
来訪者や移住者の増加への取り組み
(地域商社・小さな拠点づくり)

製造業における新たな取り組み

競合企業に対する“独自性”と
既存の経営資源を生かした“共創”を図った戦略
(2%戦略・デザイン戦略)

農業における新たな取り組み

レモン生産を軸にした様々な分野との融合

シトラスパーク瀬戸田活用事業（観光農業・六次産業化・日本版DMO）

公民連携による農業体験・滞在型の施設整備（グランピング・レモン農園）

（株）マリモホールディングス（不動産） ひろぎんキャピタルパートナーズ

（株）（地方銀行） （株）瀬戸内ブランドコーポレーション（せとうちDMO）

3社の出資による（株）せともすが運営。

<特徴>

面積 126,346㎡ 客室全8棟（2022年8月現在）

全棟オーシャンビュー プライベートガーデン 一部ドックラン付き

全棟お風呂トイレ完備 一部テントサウナ付き

地元産食材を使ったバーベキュー 焚火台完備

<沿革>

1998年 開園

1999年 しまなみ海道開通 入場者がピークの52万人を記録

2014年 広島県資産を尾道市に譲渡（多目的公園として再整備を目指す）

2015年 休園（不要施設等を撤去）

2016年度 「シトラスパーク再生事業基本設計」策定

2021年8月 「シトラスパーク活用事業募集」実施

2021年11月 事業候補者決定

2022年8月 リニューアルオープン



コミュニティづくりにおける新たな取り組み

エリアリノベーションによる来訪者や移住者の増加への取り組み
しおまち商店街における取り組み（地域商社・小さな拠点づくり）

古民家のリノベーションによる旅館・カフェなどの整備

Azumi Setoda（旅館）SOIL SETODA（カフェ）など新たな付加価値を加えた施設と以前からある魅力的な店舗（土産物店・精肉店など）により新たなコミュニティの形成が進んでいる。地域商社（しおまち企画）主催のワークショップと、企業による社会実験（地域内交通・エネルギーなど）の融合による新たな地域形成が進んでいる。

Azumi Setoda

アマン創業者であるエイドリアン・ゼッカによる新しい旅館ブランド「Azumi」。旧堀内邸（築140年）をリノベーションした高級旅館。2021年3月開業。客室数22室。別棟として銭湯付帯型の旅籠をイメージした宿泊施設として「yubune」も開業。

SOIL SETODA

街のリビングルームとして2021年4月に開業。（株）しおまち企画による運営。蔵をリノベーションした観光案内所、地域素材を活かしたレストランやカフェ、中長期滞在が可能なゲストルーム、居住者と来訪者の交流の場としての複合施設。

「Azumi」では場所のラグジュアリーさを追求するのではなく、
家庭的なおもてなしの心と、地域との共感を生む豊かさを最優先して追求していきます。

エイドリアン・ゼッカ談





地域の
食文化



象徴的な
宿泊施設



Azumi Setoda



象徴的な
観光資源



地域内外の
交流の場



ワークショップ
による活動



スローな
交通手段



SOIL SETODA

コミュニティづくりにおける新たな取り組み

エリアリノベーションによる来訪者や移住者の増加への取り組み

(株) ディスカバーリンクセとうちによる取り組み

※ONOMICHIU2とLOGは
2019年4月以降は別会社にて運営

ONOMICHI U2

海岸に位置する県営倉庫（昭和18年建築）のリノベーションによる複合施設。
2014年開業。客室数28室。旅行客と尾道に暮らす人の交流空間として整備。
コンクリート造の倉庫の中に軽量鉄骨造による施設を「街」のように建築。
宿泊施設、飲食店舗（レストラン・カフェ）、物販店舗（地元食材・ベーカリー）
自転車関連（販売・レンタル・修理）などにより構成。

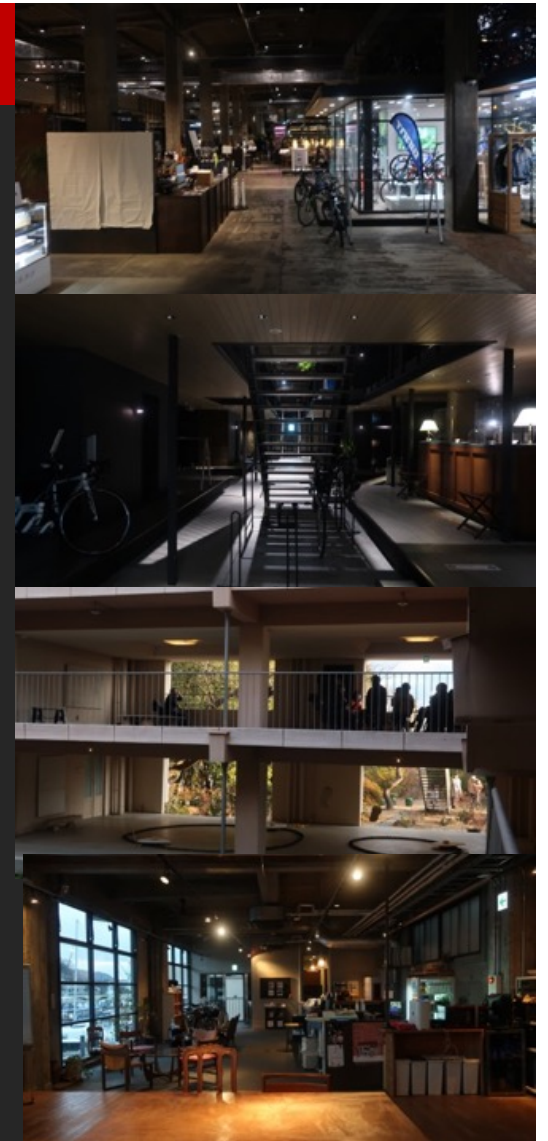
LOG

集合住宅（昭和38年建築）のリノベーションによる宿泊施設とカフェの複合施設。
2018年12月開業。客室数6室。旅行客と尾道に暮らす人の交流空間として整備。
インドの建築集団「スタジオ・ムンバイ」によるエキゾチックな空間。

ONOMICHI SHARE

海岸に位置する市営倉庫の2階のリノベーションによるシェアオフィス。
海を望める場所でのリモートワーク・スタートアップの取り組み。

「懐かしい未来」 谷尻誠（ONOMICHI U2設計者）談

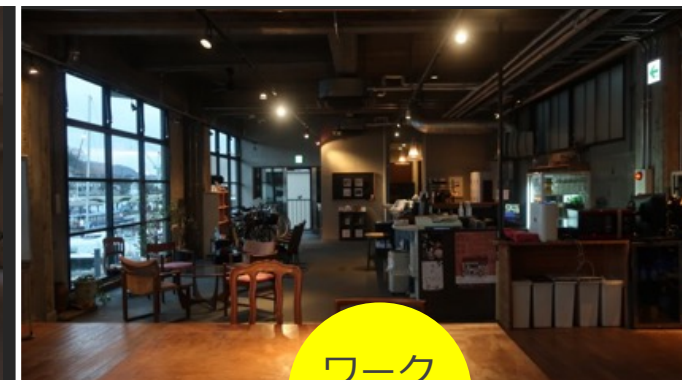




特徴的な
宿泊施設



LOG



ワーク
スペース



街の
魅力



ONOMICHI SHARE



地域素材
と食



アクティ
ビティ



ONOMICHI U2

製造業における新たな取り組み

MAZDA 広島を代表する製造業の歴史

競合企業に対する“独自性”と既存の経営資源を生かした“共創”を図った戦略



年表内の写真 <https://www.mazda.co.jp> より引用

軍需産業から自社独自製品の開拓の時代

→軍需から民間需要への産業の転換

1920年	1927年	1930年	1937年	1945年	
東洋コルク株式会社 設立	東洋工業株式会社 への改称	オートバイの製造 開始・三輪トラック の開発着手	日中戦争勃発	終戦	
広島貯蓄銀行が主導し、個人経営から会社組織へと改める形で設立した。 コルクの製造・販売が主力事業であった。 海軍から大量受注があった。	関東大震災の影響（事業の地方移転）や工場火災により主力事業を転換する必要があった。 日窒からの融資、日本製鋼所の協力を得て<u>機械事業への転出</u>することとなった。 日本製鋼所などからの受注により兵器・機械・部品の製造を行う<u>海軍工廠の指定工場</u>となる。	軍需産業だけでなく独自製品の製造の開拓を目指した。 <u>将来の自動車製造を目標</u>にオートバイの製造開始、翌年から三輪トラックの製造開始した。 府中町に工場を移転。	戦時中は小銃・爆弾の生産を中心とした軍需工場として機能した。	原爆による工場および機械設備の被害は軽微であった。 12月には三輪トラックの生産を再開した。 市街地の被害により県警本部・裁判所・NHK広島放送局に施設を提供した。	

企業提携などによるビジネスモデルの創出の時代

→小型車の生産から出発しターゲットを拡大

1959年

ピラミッドビジョン
を立案

1955年通産省による「国民車構想」により立案した。

下層部の大衆車から開拓し、国民取得水準向上とともに高級車までを担う総合メーカーを目指した。

1960年にR360クーペを発売し、1960年から62年国内販売台数首位であった。



1961年

ロータリーエンジン開発の技術提携を独NSU(Audi)と締結

通産省による国際競争力強化のためのメーカーの「3グループ構想」（普通自動車・高級車・軽自動車）に対して、**総合自動車メーカーを目指した。**

1967年コスモスポーツ発売した。



1975年

住友銀行による経営再建

オイルショックが起こった。

ロータリーエンジンに対する米環境保護庁によるガソリンの消費量の指摘があった。

販売不振による財務体質の悪化が発生した。

→自動車の生産を通じた豊かさの追求

1979年

フォードと提携

1970年アメリカ市場へ進出以降繋がりのあるフォードが25%出資する資本提携を行った。

1979年

生産台数100万台

1977年コスモクーペ「ラグジュアリー」コンセプトを発表した。

1978年発売のサバンナRX-7、1980年発売ファミリア（5代目）がヒットした。



マーケットターゲットの拡大と社会状況に伴う苦境の時代

→更なるターゲットと規模の拡大					
1985年	1988年	1991年	1996年		
プラザ合意	B-10計画 国内販売拡大策	バブル崩壊	フォード傘下による 経営再建		
<u>輸出比率が高い</u>ため円高による影響を大きく受けた。 国内販売競争の激化により収益が悪化した。	3つの販売チャンネルをトヨタと日産と同等の<u>5チャンネルに拡大し店舗数を拡大</u>した。 1989年ユーノスロードスターを発売。 <u>個性あるライフスタイルを実現する商品の提供</u>が企業としての特徴となった。	販売チャンネルと車種の増加による営業と生産にかかる費用が増大した。<u>高コスト体質が大きく影響</u>することとなった。 1991年ルマン24時間レースにて総合優勝した。	出資比率を高め、ヘンリーウォレスが社長に就任し、資産売却・コストダウン・車種と販売チャンネルの整理を進めた。 1999年ミレニアムプランによる人員削減を実施した。		
					

デザインコンセプトと新技術開発によるビジネスモデル展開の時代

→ターゲットを絞った個性の追求

2001年

2010年

2010年

2015年

新ブランドメッセージZoom-Zoom

デザインテーマ「魂動」発表

スカイアクティブ発表

フォードと提携解消
トヨタ自動車と提携

マツダの世界戦略「2%戦略」
シェア拡大よりファンによる共感を重視

心ときめくドライビング体験を提供する商品造りを目指すブランドを表現したメッセージである。

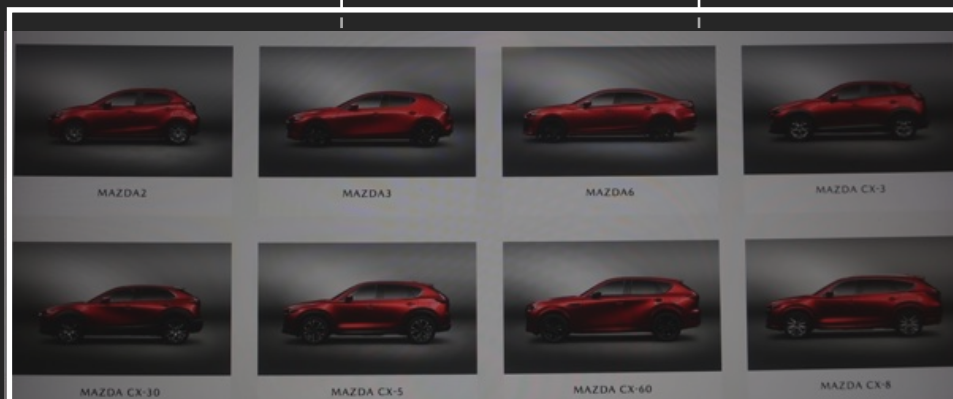
デザインコンセプトを共通にした一連のモデルを投入している。

2000年センティアの生産終了により高級セダン枠からの撤退。フルラインアップにわたる事業を見直した。

カーデザインを核とした独自性の高い商品開発を続けている。魂動とは日本の美意識である引き算の美の追求を表している。

ガソリンエンジンでハイブリッドエンジンと同等の燃費性能を実現した。

2008年のリーマンショックによるフォードの経営悪化により全株式を売却した。
トヨタ自動車と株式持合いによる資本業務提携した。



「地球」領域

- ・ライフサイクル全体におけるCO2削減
- ・内燃機関の理想形と電動化技術を組み合わせて導入

「社会」領域

- ・安全技術の進化
- ・自動運転技術の装備

「人」の領域

- ・人馬一体感のさらなる追求
- ・魂動デザインのさらなる進化

競合企業に対する“独自性”
既存の経営資源を生かした
“共創”を図った戦略

これからの産業のありかた

地域課題の解決や新たな価値の創造における
「分野を横断した取り組み」 「地域外の文化との融合」 「ターゲット戦略」 などを通じて
新たな産業の創出へと結びつける取り組みが進められることが必要とされている。

